

## 3-1. 白滝ジオパーク推進協議会（北海道紋別郡遠軽町）

### (1) アドバイザー派遣申請の背景

---

#### ●地域の概要

【人口】 21, 125 人

【面積】 1332. 45 k m<sup>2</sup>

#### 【地勢】

遠軽町は、北海道の北東部、オホーツク管内のほぼ中央、内陸側に位置している。北は紋別市・滝上町、東は湧別町・佐呂間町、西は上川町、南は北見市に接しており、東西 47 km、南北 46 km にわたる緑豊かな地域となっている。町を貫流する湧別川上流側に位置し、支湧別川、武利川、丸瀬布川、瀬戸瀬川、生田原川、社名淵川のほか多数の支流が合流し、そこに広がる肥沃な大地は、開拓当初から農耕地に適した環境として繁栄してきた。

#### 【気候・自然】

夏季は、梅雨や台風の影響を受けることがあまりなく、7～8月は晴天の日が長く続く。また、最高気温が30度を超えることもあるが、8月の平均気温は20.3度（2008年～2012年）と比較的涼しく湿度も低いので、過ごしやすい気候である。冬季は、北西の季節風の影響などを受け、マイナス20度を下回ることも珍しくない。また、降雪量は遠軽町内の各地域によって大きく異なるが、本州日本海側の豪雪地帯に比べ、雪質は軽く降雪量も少ない。

#### ●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

- ・ 遠軽町は、日本最大の黒曜石産地を擁し、旧石器時代にこの黒曜石を人類が石器として活用していたことを示す遺跡が多数発見されている。このような地域資源を活用し、地域振興を図るために平成22年に日本ジオパークの認定を受けている。
- ・ また、平成17年に4町村による合併をしており、北海道内で4番目に広い行政面積を有し、その約9割が森林という豊かな自然環境を有する。ジオパークとして、この自然環境を十分活用することが求められている。
- ・ しかしながら、観光産業が未発達の本地域においては、自然遺産や歴史遺産を生かしたツーリズムを展開する下地が不十分で、ジオツーリズムの推進基盤とそのためのガイド養成が課題となっている。

## (2) アドバイザー派遣の実施概要

日 時	平成 28 年 1 月 29 日（金）～平成 28 年 1 月 31 日（日）
場 所	北海道紋別郡遠軽町
ア ド バ イ ザ ー	株式会社知床ネイチャーオフィス 代表取締役社長 松田 光輝氏
参 加 者	計 97 名
スケジュール・方法	【1 日目】視察、意見交換会 【2 日目】視察、山彦の滝ナイトツアー 【3 日目】エコ・ジオツーリズム推進交換会、意見交換会

## (3) アドバイスの内容（講義等）

アドバイスは、最終日に講演会及び意見交換会を開催し、広く住民に共有できる形とした。講演会には 63 人参加、意見交換会には 23 人が参加した。

講演会は、えんがる町観光協会と当協議会の 2 者による主催とし、松田氏に加え、札幌市で体験観光を中心とした旅行商品を取り扱う（株）北海道宝島旅行社代表取締役 鈴木宏一郎氏も招き、複眼的にエコ・ジオツーリズムの推進について考える内容とした。

松田氏の講演要旨については、次のとおり。

- ・ 遠軽町については、観光のイメージがなかったが、現地を見たところ、自然も文化も十分誇れる。それに人材も非常に多い町だなという印象。ただ、それをつなげる民間のキーパーソンが必要。非常に資源性が高い地域であるが、それを安売りしすぎている。自信を持ってもらいたい。
- ・ 遠軽町の将来を思い描いたことがあるか。シビアにいうと厳しい。今から取り組まないと手遅れになる。遠軽町の人口推計では 2040 年に 11,874 人と推計している。年齢構成も高齢化が進む、こうなると今受けている行政や民間のサービスが受けられなくなる。このことを考えると外からの収入を得る必要がある。特に外国人観光客は増えていると言われるが、道東はまだ恩恵が少ない。
- ・ 北海道の観光は自然と食が魅力だが、遠軽町には黒曜石という他にはない歴史・文化がある。石器を得たことによって人類が飛躍的に発展するきっかけになった。動物を獲る能力が上がった。そういう特異な歴史をこの地は持っている。
- ・ 世界的に見ると、日本の自然は非常に高い価値がある。例えば、流水、動物の種類数、山地、雪など実は希少なものが身近にある地域である。世界に誇れるものがたくさんある地域に住んでいる。
- ・ 遠軽町ではヒグマを将来的に観光資源にできる可能性がある。アラスカのマクニール川ではクマを 1 m のところで見せ、1 年以上予約が埋まっている。
- ・ 知床ネイチャーオフィスのガイド事業について、会社を株式会社としているのはこだわりがある。NPO でやると好きでやっていると思われる。自然保護をしながら地域で食べていけることを示したかった。年間 2 万人以上案内している。ただし、ガイドを利用する人は 120 万人の観光客のうち 5 万人ほど。まだガイド事業にはのびしろがある。
- ・ 氷結した山彦の滝ナイトツアーは、本州や海外のお客さんを十分呼べる。あれだけの氷を見ることはなかなかできない。アクセスも容易。夜のプログラムは宿泊につながり、お金が落ちやすいので重要。

- ・ 遠軽町の資源は、マニアックなお客さんの方が受けがいいと思う。理由はいくつかあるが、一つ言うと静寂を独占的に楽しむこと。
- ・ キャットスキーも条件を聞いた限り、破格の安さだと感じた。ただし、そのための受け入れ施設やサービスの充実が必要。
- ・ 知床だから・・・と思われるかもしれないが、知床も最初からこんなにガイドがいたわけではない。
- ・ ガイドツアーの価格については、後からは上げにくいので最初に勇気をもって値付けをしていく方がよい。
- ・ 知床でもガイド行為にお金をもらうことに対し、地元の抵抗が非常に強くあり苦労した。4～5年かかってようやく認められた。行政主導の枠組みでは限界があり、会社を立ち上げた。簡単にはいれないが、現在は理解が広がってきているので、遠軽町にとってもチャンスがある。
- ・ ガイド事業はサービス産業であるとともに、情報産業でもある。テレビ・ラジオの取材協力が仕事になっている。テレビ局はコンテンツが作れないと商売ができない。情報を無料で提供するのは間違い。良質な情報を持っていればそれが産業になる。
- ・ 子供たちの教育について、子供たちは将来の広告塔。一昔前は地域の良さを教えないで、子供を都会に出していた。今、そのツケがきている。知床では、中学生に「世界自然体験学習」、高校生を対象に「知床概論」という教育を行政と一緒に進めている。長い目で見ると大事なこと。
- ・ 土産物についても、ガイドの一言が売れ行きを左右する。ガイドが勧めたものをお客さんは大体買っていく。ガイド事業と地元の他の産業の結びつきが生まれている。
- ・ 知床観光の仕組みで、認定を受けているガイドが一度に10名以内しか連れて行けない場所がある。時間ごと人数制限のルールもある。このことで、静寂を得られる。これは、山彦の滝のツアーにも応用できる。大人数のツアーから時間をずらして、ゆっくり、静かに見せる。ホットワインなどの提供をして通常の3～4倍の価格をとってもよい。
- ・ 知床には、行政機関と民間で作る会議がある。民間の事業者でも合意形成をすることで、利用できない場所を自然環境を破壊しない範囲で利用ルールを作ることができるような場を2～3年かけて作った。行政が一方的に決めていたことを、民間で決めることができる。役所が逃げられない仕組みになっている。
- ・ この地域は、見た目にはぱっとわかりやすい資源は限られている。しかし、きちんと見るとものすごくいいものがたくさんある。それを理解してもらうためにはガイドが必要。ガイドがいることで、リピーターの獲得率が高くなる。リピーターの獲得は大事。
- ・ 地域の認知度を上げる必要がある。知名度だけでなく、ここはどういうところかを知ってもらうのが認知度。これを上げるのもガイドの果たす役割が重要。
- ・ ガイドをするには、他の地域を知り、比較優位性を知ることが必要。観光客の視点で自分の地域を見れるようにすること。
- ・ 知床ではリピーターだけを対象とするツアーもやっている。メリットは、広告費がかからない。安くする必要がない。リピーターは安いから来るわけではない。安くはしないが、サービス内容は上げている。シーズンオフ対策にもなる。リピーターは、シーズンオフの方が楽しめることを分かっている。春のゴールデンウィーク明けに春と冬山を同時に楽しむツアーを組んでいる。
- ・ 自然体験ツアーが成功するためには、工夫をする必要がある。日本では海外のやりかたをそのままやっても難しい。
- ・ 「地域活性化」と「地域振興」は同じ意味だが、意図的に使い分けている。「地域活性化」～住民

がいきいきと活動している。「地域振興」～それが経済に結びついている。これを分けて議論しなくてはならない。儲けることと、地元の人が楽しむことを分けて考える必要がある。山彦の滝のツアーでこれを感じた。地元の人が多く参加している。これはとてもいいイベントだが、お金を取ってやると考えると、もう少し違うやり方が必要になる。

【記録写真】



**白滝ジオパーク交流センター視察**  
 当ジオパークで実施しているガイドツアーについて、これまでの実績と課題について説明を行った。「黒曜石」という資源は、知名度は高くないが、一定の客層には需要があるのではないかとのこと。さらに、ツアーの料金設定や海外も視野に入れたターゲット設定についてアドバイスをいただいた。



**山彦の滝ナイトツアー視察**  
 町が実施している「山彦の滝ナイトツアー」に実際に参加いただいた。出発地点からガイドがいた方が良い点やライティングの工夫、雪道を歩かせる上での安全確保のほか、同じ目的地の場合でも2コースを設定し、時間と人数を分けることで、高単価の商品開発の可能性のあることをアドバイスいただいた。



**エコツーリズム推進講演会**  
 地域の将来像を見据えた上で、今何をしなければならないかという視点からエコツーリズムの重要性が語られた。その上で当地域の自然の資源性の高さについて改めて認識することができたが、同時に、よりガイドの存在が重要であること、商品化に向けて周辺地域と連携を図りながら官民一体となって取り組む必要があることを再認識できた。



**意見交換会**  
 講演会終了後に参加者とともに意見交換会を実施した。意見交換会では、雇用につながるような料金設定を行い、いかにボランティアガイドから脱却を図るかが議論の中心であった。この課題解決に向け、今後もこのような機会を活用し、松田氏をはじめ先達の方々からアドバイスを受けながら活動を進めていきたいということで会を終了した。

## (4) アドバイザー派遣実施の効果

---

### 1) 参加者や関係者に与えた効果

- ・ 地域の自然の観光資源の価値の高さを感じることができた。
- ・ 地域では、民間、行政ともに様々な取組を行っているが、地域の人口減少などの将来を見据えると、これをうまく活用して産業（雇用）に結びつける必要があることを考えるきっかけとなった。
- ・ このためには、ガイドの存在が不可欠であり、ガイドの育成を図ること、体験観光の適正な商品化が課題であることが浮かび上がった。

### 2) 今後、期待される効果

- ・ 観光地としてのビジネスモデルを持たない当地域が、“稼ぐ”ために観光を目指すことを関係者が共有する機会となった。
- ・ ジオパークにおいては、今年、五年間のアクションプランを含むマスタープランを策定する予定であり、ジオガイド育成の取組に対する理解が広まった。
- ・ “稼ぐ”ための組織づくりについても、観光協会の法人化、高規格道路延伸に伴う新しい道の駅建設というタイミングの中で、今まで以上に考慮されることが期待される。

### 3) 今後の取り組み

- ・ 白滝ジオパーク推進協議会においては、登録制度や育成カリキュラムの整備によりガイド養成を推進する。
- ・ 町内の資源をコーディネートし、商品化するために観光協会などと連携し、仕組みづくりを推進する。

## (5) 今後の取り組み推進にあたり参考となった事項、その他感想

---

### 1) 参考となった事項

- ・ ターゲット設定により、内容や値付けに工夫が必要で、一つの資源でもいくつかの見せ方が考えられること。
- ・ 地域の良いところをあれもこれもと入れると逆効果になることがあり、利用者本位で商品作りをしなければならないこと。
- ・ 自然、文化、食、気候の4要素において、日本は世界的に優位にあり、特に当地域はマニアックながら質の高い資源が多く、外国人観光客がターゲットになりうること。
- ・ 地域活性化（地域の人が生き生き活動する）と地域振興（それが経済と結びつく）を分けて議論する必要があること。

### 2) その他感想

- ・ 元来、観光産業がほとんどない当地域であるが、確実に進行している人口減少、高齢化という問題を前に、観光で稼ぐということへの意識を、観光協会をはじめとする地域社会と共有でき、意義のある機会となった。
- ・ 松田氏の助言から常に利用者目線でツアー内容を組み立て、ガイド実践の中で技術を洗練させていることを感じられた。料金を取ることで、更にレベルアップをさせられることを考えさせられた。

## (6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

松田 光輝氏 (株式会社知床ネイチャーオフィス 代表取締役社長)

### 1) 地域における取組の現状と課題

#### ①現状の取組

当地域は行政機関のバックアップを受け、複数の団体がエコツーリズム・ジオツーリズムを展開している。

NPO 法人ジオパークサポートセンターは、旧石器時代の鍬に用いられていた黒曜石を資源としたツアーなどを開催。丸瀬布昆虫生態館は、子供向けのプログラムなどを実施。

「山彦の滝ツアー」は地域ぐるみで大勢の方の協力のもと日中のみならず、夜のツアーも行っている。

民間主導ではなく行政機関のバックアップのもとに行われているが、エコツーリズムの下地は整っている地域である。

#### ②課題

- ・ 当地域は遠軽町、旧丸瀬布町、旧生田原町、旧白滝村の4町村が合併した町である。それぞれの地域に特色があり多様性の強みはあるが、地域間連携体制の構築が十分ではないと思われる。
- ・ 宿泊施設の選択肢とキャパが少ないため、滞在型観光を行う上で宿泊施設の整備も求められる。
- ・ 税金を投与してのツアーが多く、必要経費相当の料金設定しかできず、収益構造が確立していない。
- ・ 後継者不足（人口減少に伴う）であるとともに、担当者個人の頑張りによる面が大きく、人材確保と養成も必要である。
- ・ 黒曜石の埋蔵量などは世界有数ではあるが、ビジュアル的にインパクトに欠ける面があり、今後のブランディング方法に工夫が必要である。

### 2) 特に魅力を感じた地域資源等

#### ①魅力を感じた地域資源

- ・ 豊富な黒曜石
- ・ 山彦の滝
- ・ バックカントリースキー
- ・ 山林に囲まれた静かなキャンプ場など

#### ②上記地域資源に魅力を感じた理由

- ・ 当地域の黒曜石は北海道では数少ない歴史・文化財であり、世界でも有数の埋蔵量を誇る。旧石器時代の鏃に用いられた黒曜石は、人と自然の関わりを伝える上で有効な資源であるとともに、海外からのお客様にも活用できる資源でもある。
- ・ 豊かな自然に囲まれるのんびりとできる空間は、滞在型観光への誘導が可能である。キャンプ場周辺はヒグマが生息する自然度を有し、すぐれた自然環境だと言える。
- ・ 営業休止中のスキー場のパウダースノーや、自衛隊駐屯地のあまり人が立入らない自然も他地域にはない、魅力的なすぐれた資源である。

### 3) アドバイス（講義等）の概要

行政主導のため経済的な波及効果が限定的であり、中長期的には民間主導でなければ先細りが懸念される。民間主導で取り組んでもらうためには、当地域の将来像を見据えた上で、エコツーリズム（ジオツーリズム）の方向性を位置づける必要性があった。当地域は、近い将来現在の人口が半分ほどに減少すると予想され、新たな事業（雇用）の創出が地域振興に欠かせないことと、現存する資源の有効性や活用方法についてのアドバイスを中心に行った。

### 4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

エコツーリズム（及びジオツーリズム）の推進に向けての基本方針や方向性（遠軽町における産業としての位置づけ）について、議論をすべき段階である。行政主導から民間主導に、エコツーリズムの担い手が交代する段階を得てから、推進体制等の検討に期待したい地域である。

### 5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

エコツーリズム（ジオツーリズム）を行うための有効な資源が存在する地域であるとともに、やる気のある有能な行政担当者があり、エコツーリズム（ジオツーリズム）を実施するための下地や推進体制の基礎は整っているとと言えます。

地域振興につなげるためには民間主導で行い、利益の得る収益構造を構築する必要があります。人材養成を行いつつ民間事業者の育成に努めれば、エコツーリズム（ジオツーリズム）を観光産業に成長させることが可能な地域だと思います。

また、農業・林業との連携も視野に入れつつ、新たな観光資源の掘り起こしや既存の資源に磨きをかけることにより、富裕層や外国人観光客も呼び込める地域でもあると思います。

このままでは地域の体力は将来失われてしまいます。今、活躍している人材を核に、あらたな人材育成にも励んで下さい。雇用創出が地域の将来を左右します。